

『私たちの思いよりはるかに高い神の愛』

説教箇所 ヨハネの福音書 11 章 38-44 節 メッセンジャー イザヤ木原真牧師

マルタとマリアの弟ラザロはイエス様に、とっても愛されていました。そのラザロが病気になって死にかけていました。それでイエス様のところへ彼女たちは使いを送りました。「主よ。ご覧ください。あなたが愛しておられる者が病気です。」(3 節)と。すぐ来て直して下さると信じて。ところが、イエス様はそれを聞かれると「この病気は死で終わるだけのものではなく、神の栄光のためのものです。神の子がそれによって栄光を受けるためです。」(4 節)と言われ、しかも、イエス様はラザロが病んでいることを聞かれたときも、そのおられた所になお二日とどまられて、すぐには飛んで行かれなかったのです。(6 節)。ラザロのところに着いた時には、ラザロは墓の中に入れられて四日もたっていました。(17 節)

マルタもマリアも「主よ。もしここにいてくださったなら、私の兄弟は死ななかつたでしょうに。」と言うのです。イエス様さえいてくだされば、どんなに危なくても必ず助かるという信仰が彼女たちにもラザロ自身にもあったのです。でも死んでしまっただけで、この時は、まさか生き返るといふことは考えも発想もしなかつたのです。でもイエス様はラザロを癒すのではなく、四日もたって腐っていて絶対不可能なところから生き返らせることを、実は初めから導かれておられたのです。

イエス様は皆さんを愛して愛されるのです。十字架で命をかけて愛されたのです。本当にイエス様はマリヤもマルタもラザロも愛しておられました。なのにラザロは死んでしまいました。しかしもっと大きな計画があったのです。

イエス様が来られて、涙を流された後、墓の前に来られました。墓は洞窟で、その前に溝があり、そこに大きな石が転がしてありました。イエス様はそこへ来られ言われました。「その石を取りのけなさい。」(39 節)死んだ人の姉妹マルタは言いました。「主よ。もう臭くなっておりましょう。四日になりますから。」と。するとイエス様は「もしあなたが信じるなら、あなたは神の栄光を見る、とわたしは言ったではありませんか。」(40 節)と言われます。この「信じる」とは、イエス様の言われた石を取り除けることなのです。つまり主のおっしゃることに従うことが、主を信じることなのです。彼らは石を取りのけました。その時、イエスは大声で「ラザロよ。出て来なさい。」と叫ばれると、ラザロに霊が戻って、イエス様のところへ来たのです。死んでいた体は生き返り、そして元気になって帰って来たのです。奇蹟が現れる時、鍵があります。それは、主のことばに従うことです。主のことばに従い、踏み出す時、私たちは神の奇蹟を見るのです。従うときに神の栄光を見るのです。神様は私たちの人生にも奇蹟を起こしてくださいませ。ぜひ主のことばに従って行ってほしいと思います。

最後にもう一つ、私たちの思い通りに、願い通りにならなかつた時、どうして神様はこうなんだろうと思った時、実は、もっと深いことが、もっと大きいことが必ずあるのです。私は愛されていないとか思わないで頂きたいと思います。これはまさにサタンです。神様は本当にあなたを愛しておられます。必ずその向こうに、私たちの思いを超えたすばらしい計画があるということを感じてほしいと思います。

(文責 オリーブ工藤恵美子 加筆訂正 イザヤ木原真牧師)

主の十字架クリスチャンセンター 神のしもべ長崎教会

2018 年 9 月 9 日 主日第 2 礼拝メッセージ